

市立柏原病院事務局長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

難易度

自己評価

医療提供体制の充実



（評価検証）平成 27 年 12 月 31 日

★何を指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題の目標

- ・ 救急医療体制の充実
- ・ 周産期医療の充実
- ・ 病床機能の検討
- ・ 地域連携の強化
- ・ 糖尿病診療の充実

セルフレビュー（自己点検）

- ・ 救急医療体制の充実
平成 27 年 4 月から内科救急の 24 時間 365 日体制を構築。
- ・ 地域連携の強化
紹介率・逆紹介率の向上。
- ・ 周産期医療の充実
産婦人科医師及び助産師の確保等の診療体制再構築。
- ・ 糖尿病診療の充実
糖尿病医師の確保・糖尿病教育入院・糖尿病教室の充実
- ・ 病床機能の検討
地域ニーズがある回復期病床へ、一部の病床を機能転換

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- ・ 内科救急（24 時間 365 日体制）の積極的な広報により救急受入患者の増を図る。
- ・ 地域医療連携係を病院長直轄とし、紹介患者の受入体制を強化することにより、紹介患者数の増を図る。
- ・ 婦人科疾患に対する検査・治療や分娩体制の確保を図り、周産期医療の充実を図る。
- ・ 「糖尿病教育入院」、「重症糖尿病患者の治療」等、糖尿病診療内容の充実を図る。
- ・ 在宅患者の緊急時の受け入れ、在宅・生活復帰支援、急性期病院からの患者受入を目的とする「地域包括ケア病床」の設置を検討する。

（評価検証）平成27年12月31日

取組結果・実施状況

- ・ 内科救急を4月から24時間365日体制としたことから、救急搬送患者が大幅に増加し、その内の約半分の患者さんが入院されることになった。現在、外科系救急の拡充に向け検討中。
- ・ 地域連携係を病院長直轄とし、紹介いただいた患者さんの治療状況等の症例検討会を年3回（1回目7月30日、2回目11月4日、3回目2月18日、平成28年度からは、年4回実施予定）実施するなど、地域との連携をより密にすることにより、紹介患者数の増を図った。
- ・ 医師・助産師の確保により分娩体制の充実を図った。
- ・ 糖尿病内科医師を確保、糖尿病の診療が可能となり、教育入院の実施や糖尿病教室の拡大を実施した。
- ・ 地域包括ケア病棟設置については、当初、東5階病棟の一部（18床）を1月から地域包括ケア病棟として運用していく予定であったが、18床から25床に増床、若しくは、他の機能に転換することも含み、市民ニーズ及び病院経営の観点から、再度、病床機能の転換について、検討中である。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

・救急受入患者数	100 件／月
・紹介患者率	40%
・分娩件数	35 件／月
・手術件数	100 件／月
・糖尿病教育入院患者数	40 人／年
・内視鏡検査件数	420 件／月
・心臓カテーテル検査（PCI 含む）	35 件／月

（評価検証）平成27年12月31日

取組結果・実施状況

・救急受入患者数	134 件／月
・紹介患者率	46.9%
・分娩件数	26 件／月
・手術件数	98 件／月
・糖尿病教育入院患者数	20 人／年
・内視鏡検査件数	422 件／月
・心臓カテーテル検査（PCI 含む）	28 件／月

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

☆市民がいつでも安心して治療を受けることができる。

（評価検証）平成27年12月31日

取組結果・実施状況

市民アンケートにもあるように、市民の皆様は医療提供体制の充実を望まれている（重要度の第2位）。当院は、市民がいつでも安心して治療を受けられる「救急体制」の充実と柏原市で安心して子どもを生むことができるよう分娩体制の充実に努め、一定の成果を得られた。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・ 外科系（整形）救急の拡充に向け、引き続き検討を重ねること。
- ・ 糖尿病患者の受入れ体制を強化していくこと。
- ・ 国保事業との連携など、患者獲得に向けた取組を進めること。

(最終検証) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

- ・ 外科系（整形）救急については、現在、木・土・日曜日の24時間救急を実施しているが、曜日拡大に向け、院内調整を図り、平成28年度中の比較的早期に、拡大を図っていきたい。
- ・ 糖尿病チーム（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、視能訓練士）の活性化や糖尿病教育入院・糖尿病教室等の拡充を図るなど、糖尿病患者の受入れ体制を強化していく。
- ・ 市の行う国保事業（健康事業）と連携を取りながら、予防医学の観点を踏まえた市立柏原病院の診療体制を広報することにより、患者獲得に取り組んでいく。

重点課題 ②

難易度

自己評価

経営改善



(評価検証) 平成27年12月31日

★何を指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題の目標

あり方検討委員会から、緊急かつ現実的な目標として提言されている「基準外繰入（赤字補填）の解消」を目標とする。

セルフレビュー（自己点検）

平成27年度（4～12月実績）は、昨年度の同時期に比べ、医業収支は約2億1,600万円改善することができたが、それでも経常収支の均衡、資金不足額の解消には至らないため、一般会計から最大で9.4億円の基準外繰入をして頂くこととなった。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- ・ 市立柏原病院新改革プラン（市立柏原病院八策）の実行のみならず、経営改善チームによる「早急な取り組み」を実践し、「収入の増、経費の削減」に努め、赤字補填の解消を図る。

（評価検証）平成27年12月31日

取組結果・実施状況

経営改善チームにより、「患者の獲得」「救急拡大」「診療報酬増」「経費の削減」を目標として、早急な取り組みを実践した。

	平成 26 年 4～12 月	平成 27 年 4～12 月
病床稼働率	72.3%	80.1%
入院患者数	43,753 人	48,473 人
外来患者数	91,152 人	91,115 人
救急搬送件数	680 件	1,207 件
分娩件数	155 件	238 件
医業収益	26 億 9,532 万円	30 億 810 万円
医業費用	28 億 3,960 万円	29 億 3,627 万円

経営状況は、12 月末時点で、医業収支改善額は、前年比 2 億 1,600 万円に達しているが、経常収支均衡までには至らず一般会計から支援（赤字補填）してもらうことになった。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

(評価検証) 平成27年12月31日

アウトプット

- ・病床稼働率 85%
- ・入院診療単価 4.5万円
- ・外来診療単価 1.1万円
- ・算定できる診療報酬は、全て算定
- ・材料費の削減
- ・人材育成と有効活用による人件費の削減

取組結果・実施状況

- ・病床稼働率 80.1%
- ・入院診療単価 42,501円
- ・外来診療単価 8,803円
- ・新たに算定した診療報酬の加算は
 - データ提出加算2 H27.8月 取得
 - がん患者指導管理料 1/2 H27.8月 取得
 - 急性期看護補助体制加算(50:1) H27.10月 取得
 - 糖尿病合併症管理料 H27.12月 取得
 - 糖尿病透析予防指導管理料 H27.12月 取得
 - 感染防止対策加算1 H28. 1月 取得
- ・材料費の削減
循環器内科における心臓カテーテル検査・治療に要する材料を統一することにより、年間960万円の経費削減を見込めた。
- ・人材育成と有効活用による人件費の削減
内科非常勤医師の削減・事務局職員の削減等を行ったが、共済組合負担金の算出方法の変更により法定福利費のアップ及び地域手当(3%→6%)のアップ等により人件費が増加した。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

☆一般会計からの赤字補填を解消し、経営の安定化を図ることにより、地域 住民に対し、より安全で安心できる医療を継続して提供することができる。

(評価検証) 平成27年12月31日

取組結果・実施状況

平成27年度は、特例債借入時の国・大阪府との約束である「経常収支の均衡」「資金不足額の解消」を病院独自で図ることができないため、12月市議会において議決を得て、年度末に不足額（最大で9.4億円）を補填していただくことになった。

28年度は、病院独自で経常収支の均衡を図れるよう、最大限の努力を行っていく。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・ 医師の特殊勤務手当について、業務実績を反映したインセンティブを充実させるなど、制度の見直しを行うこと。

(最終検証) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

- ・ 医師の特殊勤務手当については、業務実績を反映したインセンティブを、早急に充実させ、制度の見直しを行う。
- ・ また、平成28年度の経常収支の均衡・黒字化に向け、次の取り組みを行う。
 - ① 高齢化社会への対応に向けて、地域包括ケア病棟若しくは緩和ケア病棟の設置に向け早急に取り組む。
 - ② がん治療の充実、緩和ケア、緩和相談窓口の設置など、大阪府がん診療拠点病院としての役割を果たすとともに、患者数の増に努める。
 - ③ 市内唯一の分娩機関として、分娩件数の更なる増加を目指し、すでに実施している祝い膳やマタニティヨガに加え、夜食の提供等、患者サービスの向上に努める。
 - ④ コストの抜本的な見直しと削減を実施していく。特に、材料費において契約方法の見直しにより、材料費対医業収益比率を20%以内におさめる努力を行う。

重点課題 ③

難易度

自己評価

病院改革プランの策定



(評価検証) 平成27年12月31日

★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題の目標

平成27年3月31日付けで、総務省から「公立病院改革ガイドライン」が出され、27年度以降の病院改革について、本ガイドラインを踏まえた取り組みを実施するように」との通知が出されました。

今年度は、本ガイドラインに基づき、柏原病院の改革プラン策定に取り組んでいく。

セルフレビュー(自己点検)

公立病院改革ガイドラインにおいて、公立病院の改革推進にあたり、「経営の効率化」と「再編ネットワーク」、「経営形態の見直し」が旧改革ガイドラインと同様に明記されているが、この度、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」が新たに加えられた。

この地域医療構想とは、平成26年6月に成立した医療介護総合確保推進法に基づく取り組みであり、都道府県が2025年の目指すべき、医療提供体制を二次医療圏ごとに明らかにし、病床機能の分化や連携など、医療提供体制の再構築を図るものであり、平成28年3月末までに策定される予定である。

このことから、当院の新改革プランは、平成28年度中のできるだけ早い時期に策定する予定である。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

(評価検証) 平成27年12月31日

施策推進上の目標

- ・ 病院改革プランは、大阪府が策定する「地域医療構想」の策定状況を踏まえつつ、対象期間は平成32年度までの期間として、平成27年度又は平成28年度中のできる限り早期に策定することとされている。

当院は、府が策定する「地域医療構想」並びに「市立柏原病院あり方検討委員会の答申内容」を踏まえた改革プランを策定する。

取組結果・実施状況

- ・地域医療構想は2次医療圏内の患者状況を把握の上、病床を、「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4分類に分け、必要病床数を提示されることとなっている。

当院のある中河内医療圏では、急性期病床が多く、逆に回復期病床が少ないと見込まれていることから、急性期病床の一部を回復期病床である地域包括ケア病床(25床)に機能転換するため、現在、シミュレーション中である。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

改革プランには、

- ・ 地域医療構想を踏まえた役割の明確化
- ・ 経営の効率化
- ・ 再編・ネットワーク化
- ・ 経営形態の見直し

の4項目を柱に、策定を行う。

(評価検証) 平成27年12月31日

取組結果・実施状況

改革プランは、地域医療構想が未発表のため、平成28年度のできるだけ早い時期に策定する計画である。

改革プランには、地域医療構想を踏まえた役割として、地域包括ケア病棟の設置をはじめ、経営の効率化に向け、材料費等の抜本的な削減等、健全経営に向けた具体的な取り組みをプランとして策定していく。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

☆地域医療構想を踏まえた市民ニーズを満たし、また、経営の安定化を図ることにより地域住民に対し、より安全で安心できる医療を継続して提供することができる。

(評価検証) 平成27年12月31日

取組結果・実施状況

市民アンケートによると、医療体制の充実が、重要度の2番目に掲げられていることから、当院としても、市民ニーズを満たし経営の安定化に向け最大限の努力を行い、より安全で安心できる医療を継続して提供できるように努めていく。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(D) 残念 : 残念な結果である。目標を達成できるよう改善を図られたい。

市長のコメント

- ・大阪府の地域医療構想の策定状況や近隣医療機関の動向に注視しておくこと。

(最終検証) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

- ・3月末に大阪府から出される「地域医療構想」、近隣医療機関の動向及び当院の経営改善を踏まえた新たな改革プランを、平成28年度の比較的早い時期に策定していく。
- ・新改革プランは、平成29年度から平成32年度にかかる病院改革に向けたプランである。当院は、現経営形態において、平成28年度の経常収支均衡・黒字化を、また資本的収支を含めた健全経営に向けた病院改革プランを策定していく計画である。